

## 各地区での「熟議体験」が始まっています！ ～「共有して、協働する」ことを目指して～

コミュニティ・スクールの導入と地域教育協議会における取り組みを進めるため、地域での「熟議体験」が9月16日の綾織町を皮切りにスタートしました。

この熟議体験は、話し合いを通じ「地域の目指す子どもの姿」や地域の子どもに対する考えや想いを、改めて共有することを目指しています。

綾織町では、「遠野市の子どもたちに郷土の『誇り』と『夢』を育むために、私たちができることは…?!」をテーマに話し合いが行われ、委員15名が参加しました。

県教育委員会の社会教育主事3名のファシリテートで熟議体験はスムーズに進み、参加者からは「郷土芸能」「まちを知る」「豊かな自然」などの郷土の誇りを育むための手立て、「多様な体験」「否定をしない」「本をいっぱい読む」といった夢を育むための手立て、そして、そのために自分たちができることとして「声掛け」「あいさつをする」「大人が見本を見せる」など、200を超える多くの意見が出されました。

最後に、ファシリテーターが「夢や未来に向かう地域の子どもたちのために、郷土の良さを学ぶことや、様々な体験のために、地域の大人があるべき姿を示しながら『つながり』や『交流』を図っていくということが皆さんの想いなのではないか」とまとめ、参加者は、体験を通じ熟議の有効性を確認するとともに、これからの取組の検討に向けて想いを新たにしているようでした。

これまで、綾織地区を含む4地区で熟議体験が行われました。

今後、地域教育協議会の委員だけでなく、PTAや委員以外の地域の方など、多くの方々に熟議体験に参加いただきたいと思います。

なお、本市の学校運営協議会が中学校区で組織する方向性であることを踏まえ、中学校区単位での「熟議体験」についても行う予定です。



〔写真上〕「熟議」について講義を受ける参加者。〔写真中〕各グループでは、活発な意見交換が行われました。〔写真下〕岩手県教育委員会高橋主任社会教育主事による「意見のまとめ」の様子。「まとめ」は講師が行うことで、参加者はより話しやすい雰囲気。

### 【覚えてほしい！この言葉①】

### じゆくぎ 「熟議」

「熟議」は、「多くの当事者（関係する地域住民）が『熟慮』と『議論』を重ねながら、目標共有や課題解決をしていくことをいいます。相互理解や課題の共有、自己肯定感、役割の明確化などの効果があるとされており、コミュニティ・スクールを先行して導入した地域では、「熟議」に取り組んでいる地域の方が、よりコミュニティ・スクールや学校と地域の連携・協働が円滑に進んでいるとの事例が示されています。

### 目標共有や課題解決を目指すときに 有効な話し合いの手法「熟議」は…

- ・多くの当事者（関係する地域住民等）が集まって、
  - ・課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、
  - ・互いの立場や果たすべき役割への理解が深まる
- とともに、
- ・解決策が洗練され、
  - ・個々人が納得して自分の役割を
  - 果たすようになる …とされています

